

最優秀

ぼくが幸せな理由

新見市立哲多中学校

一年 南 七 雄

ぼくは、父と母と弟の四人家族だ。ぼくは小さいころから魚が大好きで、家族はいつもぼくの好きなことに付き合ってくれる。

父は、日曜日しか休みがないのに、鳥取の海まで車を運転して、釣りに連れていってくれる。父は、バス釣りしかしたことがなかったので、海釣りのことを色々な人に聞いて、ぼくに教えてくれた。最初はちよい投げでフグしか釣れなかったのに、父のお陰で、今ではサゴシやカンパチまで釣れるようになった。ぼくは最初、えさの青虫が気持ち悪くて付けられなかった。父は、

「釣りをするなら、これくらい一人でやれ。」

と言いながら、毎回えさをつけてくれた。今は、ぼくもへっちゃらだ。アジが百匹以上釣れた時は、夜十一時くらいまで一緒にさばいてくれた。父は、最初は魚をさばけなかったけれど、ぼくと一緒にユーチューブを見ながら勉強してくれた。大きなブリを買ってもらった時は、背骨がぶつとくて硬いので、ぼくのかわりに切り落としてくれた。それからぼくは、いつもいつも川で魚を探しているので、父は、

「昼だけじゃなくて、夜の川も見てみたら？」

と言って、夜、川に連れていってくれた。夜の川の中は、昼と全然違って、まるで別世界だ。昼はすばしっこいオイカワが、夜は岩陰でゆつくり寝ている。昼は隠れて見えないうなぎが、夜はえさを求めて堂々と出てきている。ぼくは「こんなに楽しいことがあったなんて……。夜の川は最高だ！」と思った。それから何度もぼくは、夕方父が帰ってくると、

「川に行きたい！」

と、お願いした。父は、仕事終わりで疲れているのに、ちょっと休んでからすぐついてきてくれた。

母は、ぼくが保育園のころから、魚の図鑑や本をたくさん買ってくれた。それから、ぼくが好きそうな魚番組を、色々録画してくれている。家で暇な時は、本やテレビがあるから楽しい時間になるし、新しいことが知れて勉強にもなる。夏休みは、父の代わりに川に連れていってくれる。初めは嫌そうだったけれど、日焼け止めをたくさんぬってついてきてくれる。結局母も、

「きゃー冷たい！すべったー！」

と叫んで楽しそうなので、ぼくも嬉しくなる。去年は、夏休みの自由研究に使う川魚の写真を、きれいに撮ってくれた。携帯がぬれるのが嫌そうだったけれど、写真が好きな母は、魚が分かりやすいよう、ぶれないように熱心に何度も撮り直してくれた。日曜日はよく母は、

「服を買いに行きたい。」

と言っているけれど、ぼくたちと一緒に海釣りについてきてくれる。ぼくがさばいた魚を、一緒に料理してくれる。最初は魚料理の本を買ってきて、本を見ながら作っていたけれど、今は見ずにさつと作っているし、色々な魚料理が出てくるようになった。「お母さんは凄い。」と思った。ぼくは母から、魚の塩焼きと煮付けと天ぷらと唐揚げの作り方を教えてもらった。今は、全部一人で作れるようになった。

弟は、日曜日、公園で遊びたいのに、海釣りについてきてくれる。ぼくが大物を釣ったら、

「すごいが。天才じゃが！いいなあ。」

と言ってくれる。川にも一緒についてきて、魚探しをする。今では弟も、魚とり名人だ。ぼくがさばいた魚を、ぼくはく食べてくれる。時々一緒にさばいてくれるから、ぼくは嬉しくて、色々教えてあげる。一人より二人のほうがとっても楽しいし、仲間みたいで嬉しい。

ぼくは、魚のことを考えている時が、一番幸せな時間だ。母は、

「好きなことは、とことんすればいい。」

と言ってくれる。

「好きなことをつきつめるのは、将来のためになるかもしれないし、ならなくても自信や継続する力がつく。好きなことがあるのは凄いことだよ。」

と、よくほめてくれる。父は何も言わないけれど、全部認めてくれている。弟は、「お兄ちゃんだけ好きなことをしなことを自由に続けることができる。ぼくは、これだけしてもらっているのだから、家族のみんながすることも協力して応援しようと思う。そして、みんなにまだ、「ありがとう。」を伝えていないな、と気付いたので、今度釣りに行った時、「ありがとう。」を伝えようと思う。そして、ぼくの将来の夢は魚の研究員になることなので、夢に向かってがんばっていきましょうと思う。